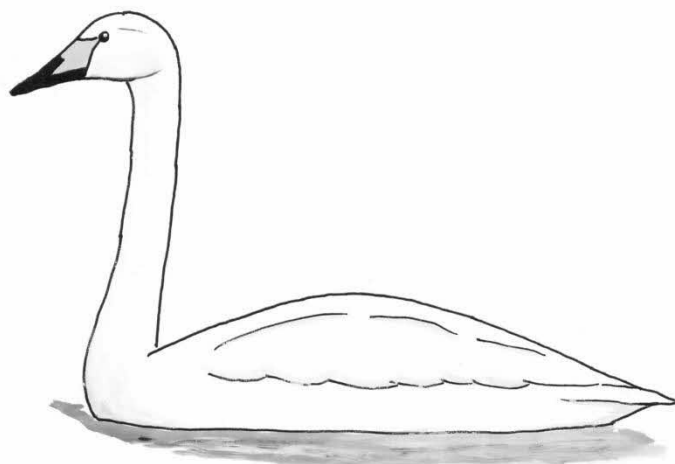


ウトナイ湖のハクチョウ

ウトナイ湖には、3種類のハクチョウがすんでいます。それぞれのからだやくらしのちがいについて見てみましょう。

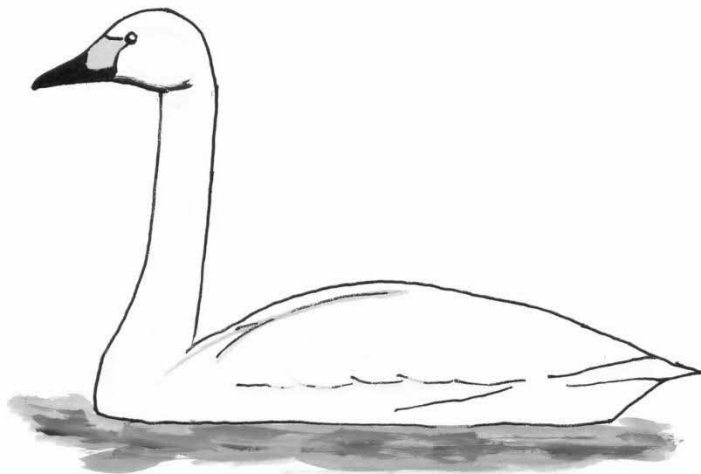
オオハクチョウ



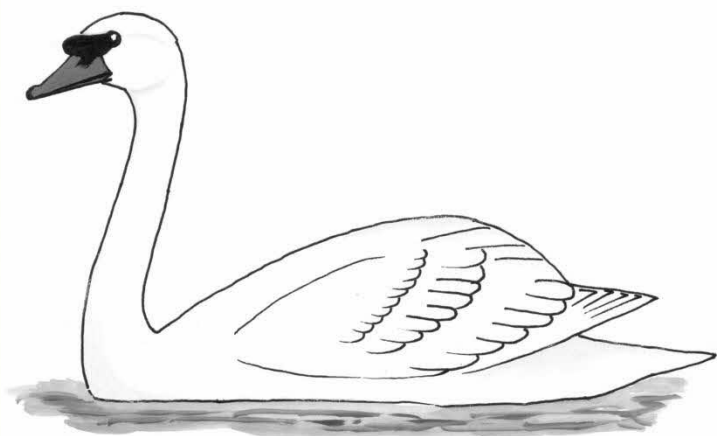
3種類のうちで、2番目からだの大きいハクチョウ。くちばしの黄色いぶぶんが多く、黒いぶぶんが少ないところが、コハクチョウと見分けるときのポイントになります。首が長く、水面でさかだちをしたりして、カモの首がとどかないような、深い水のそこにある水草をたべます。また、田畑にとんで行き、草やおちているイネなどを食べることもあります。秋、シベリアを飛び立ったものが、10月の中ごろに飛来します。その中には、次の春までウトナイ湖ですごすオオハクチョウもいます。

コハクチョウ

3種類のうちで、いちばん体の小さいハクチョウ。くちばしの黄色いぶぶんと、黒いぶぶんが同じくらいの大きさです。（オオハクチョウと見分けるときのポイントになります。）首はオオハクチョウより短いため、太く見えます。水面でさかだちをして水草を食べたり、大きなみずかきのついた足で、水底の水草の根をほりおこして食べたりします。秋はオオハクチョウよりも1週間ほど早く飛来します。ウトナイ湖の水面がこおる真冬は、本州の方へ移動してしまうため、ほとんどみられなくなります。



コブハクチョウ



3種類のうちで、いちばん体が大きいハクチョウ。くちばしはオレンジ色で、つけねに黒いこぶのようなものがついているので、ほかのハクチョウと見分けるポイントになります。もともと日本にはいない外来種（がいらいしゅ）です。ウトナイ湖や、ウトナイ湖につながる川などで、1年中暮らしています。ほかのハクチョウとおなじように、水草をたべます。

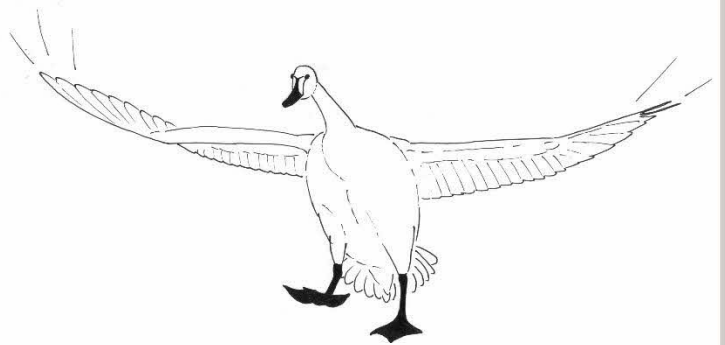
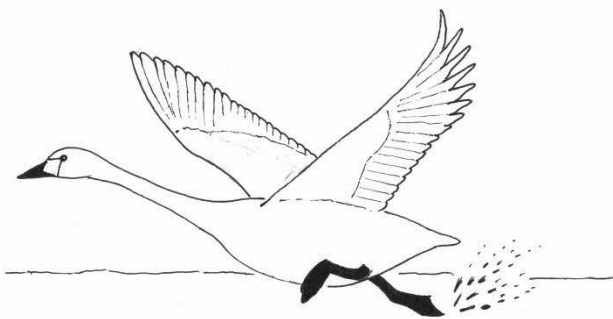
ハクチョウのこんなところを見てみよう

ハクチョウの飛び立ちと着水

みなさん、ハクチョウの体の重さはいくつぐらいか知っていますか？ いちばん大きなコハクチョウで最大16kg、小さなコハクチョウでも8kgぐらいあります。

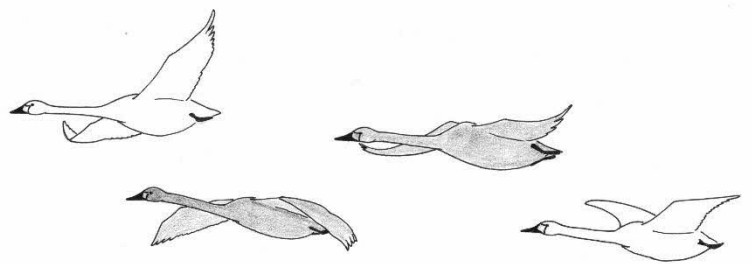
けっこう重たいんですね。それが空をゆうゆうと飛ぶのですから、ハクチョウの飛ぶ力はすごいものです。

体の重たい鳥ですから、飛び立つときにはカモのようにすぐに水面から飛び上がることはできません。下左の図のように、水面をおおきな足でけて、数十メートルも助走をしないと飛び上がれません。着水するときは、車とおなじくらいのスピードで飛んできますから、うまく着水するにはブレーキが必要。ということで、ハクチョウは大きなつばさと尾の羽、そして足の水かきをめいっぱい広げて、速度をおとし、きれいに着水するんですよ。着水すると、しばらく水面をスケートのようにすべるのがおもしろいですね。



ハクチョウはいつも家族がいっしょ

ハクチョウをよく見てみると、白くてきれいなものと、ちょっとすすけた灰色っぽいものがあります。すすけているのはその年にうまれた幼鳥。ハクチョウは冬の間、家族で生活し、どこへいくにもいつもいっしょ。飛んでいるときや、水面を泳いでいるときは、たいてい親鳥が先頭とうしろにいて、子どもたちをはさんでいます。とっても家族愛が強い鳥なんですね。



ハクチョウはどこからやってくる？

渡りをするオオハクチョウ、コハクチョウの古里は、ロシアの北極圏にちかいシベリア地方です。木のほとんどはえない広大な湿地帯で子育てし、秋、3000km以上の距離を渡って日本へやってきます。

渡りのコースは、オオハクチョウ、コハクチョウともほとんど同じで、ロシアのオホーツク海沿岸のオホーツクやマガダン付近から、サハリンをとおって北海道へきます。北海道に渡ってきたオオハクチョウは根室、釧路地方から太平洋側をって本州へ（灰色の線）、コハクチョウは稚内から日本海側をって本州へいく（黒い線）ルートがわかっています。

